

Nagasaki University

環境科学部の研究室
**進化生態学
研究室**

謎だらけの生物の生態を解明
興味と好奇心が解決の糸口になる
HATTORI Lab.



基礎から応用まで幅広く
取り組みます。生き物に
対する興味や好奇心を、
満たすことができる研究
室です。



服部 充 准教授

生き物の生存や繁殖に重要な、「生物間相互作用」と呼ばれる生物同士の関係に着目しています。私たちの周りには多くの絶滅危惧種が存在しますが、その生態はほとんど解明されていません。生きるために必要な花粉を運んでいるのは一体どんな虫や動物なのか。生物同士の関係について理解を深め、保全策の策定などに役立てようとしています。

ほかにも、絶滅したと考えられている生物の再発見など、幅広い研究テーマに取り組んでいます。そのため研究対象となる生物はじつに

多様です。文系、理系問わず“生物に興味がある”“生物に絡んだ社会課題にチャレンジしたい”など、皆さんの興味と好奇心を活かせる研究室です。

また、学部生の頃と比べて研究により集中できるのが大学院です。地域、NPO、官公庁の皆さんと密に連携を取りながら、研究を進める時間も増えるため、研究者の一員として地域と向き合い、その上で得られた知見を地域にフィードバックすることが可能にもなります。研究の醍醐味を味わうとともに、就活時の強みにもなるでしょう。



**多様な生物たちの
生態解明にチャレンジ**

ミヤマキリシマ、ウンゼンカンアオイ、ジャンボタニシなど、これまで研究の対象としてきた生物は多種多様です。そのため虫を育てる、植物を栽培するといった基礎の基礎から応用まで幅広く取り組んでいく中で、高度な実践力が養われていきます。



**地域社会と連携して
課題に向き合う**

当研究室では、地域課題と向き合う研究テーマが少なくありません。一例として現在、雲仙に自生しているミヤマキリシマの保全・保護に関する取り組みや、魚の養殖時に代替飼料としての使用に向けたミルワームの効率的な育て方の研究などに取り組んでいます。



**研究で培った能力は
就職活動にも活かせる**

より新しい価値や能力を開花させるなら大学院へ。生物を扱う研究はデータに不確定要素が入りやすく、計画の立案能力が鍛えられます。就活時に評価されるポイントになるでしょう。実際、修士課程を修了した先輩の多くが大手企業に就職しています。



九十九島の無人島へ、生物調査に行く途中の船上にて撮影。

はっとり みつる

2013年3月信州大学大学院総合工学系研究山岳地域環境科学専攻にて、博士(理学)の学位を取得。長崎大学総合生産科学域(環境科学系)助教等を経て2019年10月より現職。2018年10月より活水女子大学非常勤講師も務める。研究分野はライフサイエンス/生態学、環境学。